

八戸伝統野菜「糠塚きゅうり」生産伝承会（仮称）の設置について

1 現状

昭和30年代頃までは、当地域できゅうりと言えば、糠塚きゅうりのことを指し、糠塚地区を中心に古くから栽培されていたが、白イボ系の細身のきゅうりの登場により、一時はほとんど店から姿を消していた。

最近では、昔なつかしのシャキシャキとした歯ざわりの良さと苦味が見直され、八戸の夏の風物詩として、朝市、横丁、スーパーマーケット等でもよく見かけられるようになっている。

代々自家採種され、八戸周辺の地域においても生産されるようになったものと考えられるが、現在の八戸市では、細々と生産され、産地が形成されているわけではない。

(1) 市内生産者数（推計）

約20名

(2) 市内生産量（推計）

約10,000kg

2 設置の目的

八戸伝統野菜「糠塚きゅうり」の生産と生産技術の伝承を図り、八戸市の食の文化財としての継承と生産を振興するために設置する。

3 八戸伝統野菜「糠塚きゅうり」生産伝承会（仮称）の概要

(1) 生産伝承会の構成

市内在住の農業者で市内の農地に糠塚きゅうりを生産している者、又は、今後、生産する強い意欲のある者のうち、生産伝承会への入会を希望する者で構成

(2) 事務局

八戸市（農林水産部農業経営振興センター）

(3) 事業

- ①交雑していない種子の継承
- ②生産技術の継承及び検討
- ③他の地きゅうり等との差別化

(4) スケジュール

時期	実施内容	糠塚きゅうりの栽培暦
平成26年1月	会員の公募開始	
平成26年2月	生産伝承会の設立	
平成26年3月	生産技術検討会の開催	
平成26年4月		播種・ポット等へ移植
平成26年5月		畑へ定植・管理
平成26年6月	目揃い会の開催	収穫
平成26年7月		↓
平成26年8月		収穫
平成26年9月		
平成26年10月		
平成26年11月	生産検証会の開催	
平成26年12月		